

# 答 申 書

平成21年8月26日

国見町教育委員会 様

国見町小学校適正配置検討委員会  
委員長 森田 道雄

平成20年10月24日付けで諮問された、「学校適正配置のあり方」「学校適正配置の進め方」について、当検討委員会は慎重に審議を重ねてきたところである。その結果を下記の通り報告する。また、下記の結果に至った理由等については別紙の通りである。

## 記

国見町の各小学校は、児童数の将来予測から小規模化が進み近い将来町内5校中1校を除き複式学級が不可避となる。これにより、学校規模と良好な教育的環境について明確な判断は難しいものの、児童の教育指導上だけでなく、学校運営上も多くの問題が生じることが懸念される。児童の適切な教育環境を保持し、教育を受ける権利を公平に確保する上でも、学校及び学級規模の適正化を進める必要がある。また、老朽化の進む学校施設もあり、児童の安心・安全の確保からその対策が急がれる。

### 1 学校適正配置のあり方について

小学校の適正規模化を図るために、小坂小学校、藤田小学校、森江野小学校、大木戸小学校、大枝小学校(国見町分)を統合し、国見町の小学校を1校とするのがよい。

当面は現在の藤田小学校の校舎・校地を活用することとし、町唯一の小学校にふさわしい教育環境となるようその整備に万全を期する。

また、国見町民全体の教育意思として受け止め「新たな小学校」として位置付けるのが望ましい。

さらに、通学については、かかる時間・距離をふまえて、児童の健康・安全を確保するための配慮をする必要がある。

### 2 学校適正配置の進め方について

各小学校によって置かれている状況は異なるが、新たな学校づくりの理念からしても、平成24年度を目標年度として、その発足を期待するものとする。

ただし、組合立大枝小学校のあり方に関しては、保護者・地域の方々の意思や大枝小学校組合教育委員会、伊達市側の意向を尊重し適切な対応をすることが重要である。